

特集：「レ・コード」のまち新冠

新冠町聴体験文化交流館、愛称「レ・コード館」は、平成9年6月8日にオープンし、今年で開館20周年を迎えました。

そして、この節目となる年に花を添えたのが「寄贈レコードの100万枚達成」で、ちょうど開館20年となる6月8日には、「寄贈レコード100万枚達成記念セレモニー」が開かれ、その様子が全国にテレビ放映されました。

今では、新冠町は「レ・コードと音楽のまち」として知られておりますが、なぜ新冠町でレコードが集められ、レ・コード館が建てられたのかを知らない方も多くおられるかと思えます。

広報にいかつぶでは、この開館20周年という節目に、これまで進めてきた「レ・コードと音楽によるまちづくり」の歩みを振り返る特集記事を掲載し、「レ・コード館が建てられた経緯」、「施設の魅力」、「町民の生涯学習施設としての取り組み」などについて連載で紹介していきます。

1回目となる7月号では、「レ・コードと音楽によるまちづくり」が生まれた背景と、レ・コード館が建てられるまでのまちの様子について紹介します。

広報にいかつぶで
「レ・コード&音楽によるまちづくり」
振り返る

**岡町長の就任と
第3次新冠町総合計画**
昭和63年から2年間、竹下内閣が「個性豊かな地域づくり」と、全国の市町村にふるさと創生資金1億円を交付しました。
同じ時期、新冠町では20年にわたり町政を担った小野木町長が退任することとなり、平成元年6月に町長選挙が行われ、岡裕町長が当選を果たしました。
翌年、岡町長は、町行政の基本指針となる第3次新冠町総合計画を示し、「うるおいと活力のあるふるさとをめざして」をメインテーマにまちづくりをスタート。この中で具体的な目標として掲げた「豊かな人間性と文化をつくる」が、その後の「レ・コード&音楽によるまちづくり」につながることとなります。

**レコード音楽による
まちづくり**
岡町長が就任した頃、町内では、ふるさと創生資金の活用方法などをテーマとして、まちのあちらこちらで未来の新冠について議論が交わされており、広報紙にも「町民がまちづくりについての意見交換」といった記事が多数掲載されていました。
そのような中、音楽好きが集まり結成したサークル「1枚のレコード」がレコード音楽を活用したまちづくり構想を提唱しました。

**サークル
「1枚のレコード」について**
平成3年11月号掲載
「1枚のレコード」の会員であった、当時の国民健康保険病院院長・渡辺博志さんが、広報紙のインタビューでサークル活動の思いを語っています。
サークル結成のきっかけは、昨年の暮れ、いつものように音の仲間が集まり、夜更けまでジャズを聴きながら酒を飲んでいくうちに、なぜか突如として話題がふるさと創生資金とかまちづくりの話になり、すっかりその話題で盛り上がりすぎてしまい我々もまちづくりに参加したいと思うようになりました。
その時、自分たちの中で、世界のレコードを集めるという夢とまちづくりの夢とが重なりあっているという構想が生まれました。



平成3年8月号掲載

1枚のレコードは、定期的に出前コンサートを開催。広報に掲載されたこの写真は、緑丘の雲熱府風亭（うんねっぶひゅって）での様子。



渡辺博志さんへのインタビュー記事

ふるさと

